ボランティア活動報告書(3　号)

記入日	2015年02月02日
区分	一般隊員
氏名	石川　雄介　(　25-3　)
派遣国	ナミビア
職種・指導科目	土木
派遣期間	2014年01月14日 ～2016年01月13日

報告書　3　号要約

ナミビアに赴任してから1年が過ぎた。生活にも完全に慣れ、仕事のスタイルにも慣れてはきた。問題点は数多くあり、自分なりに解決策を考えて実行に移そうとしているが、なかなかうまくいっていない。

「すべての失敗は、当人の能力不足で説明できる」と私は思っているので、何もできていない、自分の能力不足が嘆かれる。

自分ひとりか役場の幹部数人で進められる段階まではスムーズにできるが、それ以降の、作業員やその他の人物を巻き込むところからがまったく進まなくなる。

日本なら、仕事の責任や契約による義務感、報酬などでモチベーションをあげることもできるが、ナミビアではそのようなことは機能しない。

現在、私が感じているのは、「彼らには危機感がない」ということだ。

仕事をサボっても罰を与えられない。とりあえず、言われたとおりに時間通りに職場にいれば給料はもらえる。仕事を頑張ったところでもらえる給料は変わらない。この町や国が世界の中でどのような状況にあるか想像できていない。もしくは、わかっていても自分は今とりあえず生活できているから将来のことは考えていない。

彼らの態度・言動から、そのような意識がとても溢れていて、逆に清々しいほどだ。

役場配属の隊員からよく聞く話だが、設計などをして工事に予算がつくまではスムーズだが、そのあとの実行段階になると急に速度が遅くなる、と。まさに同じ状態である。

おそらく、彼らは「仕事を実行するために何をすればいいのか」が分からないのだと思う。それらを一緒に実行するために協力隊が来ているのだから、協力隊員の助言を聞き入れてそれを実行してもらえたらいいのだが、やるやると言うだけで何もしていないのは残念な限りだ。

せめて１人、本当のエンジニア候補が入れば、少なくとも測量技術と現場管理については伝えることができるので、採用をするよう働きかけているところである。

1.　活動の進捗状況

2014年7月から新しい年度が始まり、私の担当する市民公園建設の予算もついた。当初は、私とCPの2人で工事をまとめていくという話だったが、だんだんと私に任されるようになってきて、少し問題を感じている。

工事は簡単なものだが、ひとりでやってしまっては、確かに物事はスムーズに進むが、それだけで終わってしまう。

役場の作業員も、口ではやる気があるようなことを言っているが、実際に仕事を頼むと、日々のルーティーンワークで忙しいなどと返してくる。結局は、もらえる給料は同じだから、余計な仕事はしたくない、という意識であると思われる。残念なことである。

自分の要請内容は、測量技術や工事管理のアドバイスをすることだが、役場には測量器械がなかった。　本来なら、予算がついた7月に機械を購入し、すぐに工事を始めたかったが、購入手続きに時間がかかり、機械が届いたのは11月であった。工事着手までの現場準備作業を同僚と行いたかったが、一緒に作業するという事ができず、ひとりで準備をしてしまった部分が多かった。現在、測量作業にとりかかるところであるが、測量技術を教える相手がいないという事が課題となっている。

2.　着任後1年時点の活動結果と課題及び課題に関する解決案

活動の成果としては、公共トイレの設計図面の作成、市民公園の設計図面の作成、郊外への水道管布設計画図面の作成、役場のオフィス拡張図面の作成を行った。

現在は、市民公園建設計画を実行に移す段階であり、課題も多くある。

課題としては、技術者の不足が最優先事項としてあげられる。

私の要請は、測量技術の指導及び現場管理技術の指導だが、技術を教える相手がいない。役場のエンジニアの仕事は、工事の発注業務であり、現場で測量作業を行うということはない。私のカウンターパートもオフィスでの仕事が主であり、コンサルタントや施工会社と打ち合わせをすることが仕事となっている。実際の作業を行うとすれば役場のワーカーに教えることになるが、彼らのモチベーションはとても低い。

測量技術は難しくはないが、やる気のない者に教えても身につくものではないので、現在、職業訓練校から新規の職員を募集しているところである。

3.　現地支援制度活用計画

配属先と協議し、測量器械購入のために携行機材費の利用申請をしようとした。
JICAと配属先が半分ずつ費用を出すということで、配属先と合意していたが、財務の部署が途中から、購入を認めることができないと言い出し、結局申請をすることはなかった。
私の活動には測量器械が必要なため、今年度の予算のうち市民公園建設予算の中から測量器械購入の費用を捻出し、役場が全額を支払い購入した。
とにかく、測量器械は購入することができたので、自分の活動もすすめることができ、安心しているところである。

4.　社会的格差に関する所見

ジェンダーや民族による差別は特にないと私は感じる。役場の職員にも、ジンバブエ人がいたり、カバンゴ族以外の民族もいて、待遇に違いはない。男女に関しても同じである。

ただ、町にいるホームレスのような人やストリートキッズにはサン族の人が多いと感じる。理由としては、サン族は伝統的な暮らしをしている人が多く、学校も途中で進級できなくなり、英語もほぼ話せないため、就ける仕事がないと思われる。

ナミビアは世界一貧富の格差が大きいと言われているが、確かに言われる通りである。私の任地のような地方の町でも、欧米の高級車に乗った人たちもいれば、同じところに靴も履かずボロボロの姿で歩く人もいる。

白人と黒人の差というよりも、高等教育を受けたかどうかという事の方が大きいと感じる。

高い給料を得られる役場や民間に就職するには学歴が必要であり、学歴のない人は低い

給料の職に就くしかない。役場のエンジニアの基本給は月額20万円ほどであり、作業員の給料は月額2万円ほどである。今のシステムでは、両方共がやる気をなくしやすいので、評価制度を見直して給与体系を変えていくことが必要であると思う。

5. その他突起事項（日本とナミビアの違い）

日本とナミビアの違いとしてはいくつかあげられるが、やはり、環境というよりも人間というものの違いが大きいと感じる。

仕事のスタイルに関しては、文句を言っていてもしょうがないので、違いを認めて、彼らに合った仕事のやり方を提案するしかないと思うが、私としては、彼らは能力的に優れた部分を多くもっているだけに非常にもったいないことだな、と思う。

もし彼らが日本人のような働き方や仕事に対する意識を持ったとしたら、世界でもトップレベルに慣れるのではないか、と思っている。

また、かなり個人的な感想になるのだが、ナミビアの人は黒人も白人も民族にも関係なく、食生活が乱れているというか、不健康であると感じる。各食事に使う油の量や調味料の量、コーヒーに入れる砂糖の量など、常軌を逸しているとしか思えない。

人種が違うからなのだろうかと思うのだが、レストランの味付けは普通に日本人にも合うというのは不思議でしょうがない。

JICAへの要望・提案

特になし。

別送書類

・ 指定添付書類（様式１～4）

ボランティアへのコメント(在外事務所)　　記入者：